

【福島】いわきシティセールス協議会（中井靖司会長）は12月24日、日本のフラダンス文化発祥の地である福島県いわき市を全国にアピールしようと、大型トラックに地元高校フラダンス部員たちの写真をあしらったラッピングトラックの出発式を開いた。

いわき市は、フラダンスを地域観光振興と経済活性化に活用し、「フラシティいわき」の知名度を高めようと、支援団体の同協議会と連携して広報、PR活動を展開している。その一環として、トラック荷台にフラガールや名所、観光地などをデザインしたトラック

# フラダンスのまちPR

## いわきシティセールス協



で、走る広告塔として全国にアピールするのが目的。同協議会から福島県トラック協会のいわき支部（松

尾活秀支部長）に協力依頼があり、会員である新富運輸（金井一夫社長、いわき市）と岡田陸運（割谷明裕社長、同）、警栄運送（丹治寛記社長、同）の3社の、それぞれ1台へラッピングを依頼した。警栄運送は2022年3月にラッピングした車両に次いで2台目となる。

出発式で、中井会長は「全国を走り、多くの方々にい  
地元高校フラダンス部員  
や一般市民も訪れた出発式

## 3事業者 ラップトラで協力

わき市に興味を持ってもらえるよう、協力をお願いしたい」とあいさつ。内田広之市長は「いわき市のブランド力を高め、交流人口と経済活動の活性化につながるよう期待したい」と語った。

3社を代表して新富運輸の金井社長が「『いわきの顔』となっていたら、高校生に恥じないよう、安全で安心な運転に努め、イメージアップに協力したい」との決意を示した。

テープカットの後、協力した各校のフラダンス部員や市民が見守る中、ラッピングトラックが全国の記送先に向けて出発した。

（富田久男）